

「待つ忍耐」

「この年になって、どうしてこんなに悲しい目に合うのだろう」。長生きをすればするだけ、耐えきれないような辛い思いに何度も出会う。試練の中にある時、私たちは、道が見えなくなる。雪山で吹雪に迷っている時のように、行き先を見失ってしまう。そのような時には、しばらくじっと辛抱して、留まる。待つ忍耐が必要である。雪山であれば、山登りの同志と共に雪洞を掘り、その中でひと晩を温めあって過ごす。翌朝もし晴れば、安全な下り坂を発見できるだろう。与えられた道が見えてくるまで、じっと耐えることである。

(いのちの言葉 日野原 重明 より)

新型コロナウイルス感染症の拡大により、引き続き警戒しながらの日々がしばらく続きそうです。そんな状況の中でも日々成長を見せる子ども達の姿がとても頼もしく感じます。

人生の中で、辛いこと、悲しいことを私たちはたくさん経験します。その渦中にいる時は周囲が見えなくなり、孤独を感じたり、逃げ出したくなったり、時には苛立ちをぶつけてしまいます。そして感情的になったり焦って物事を片付けようとして、大切なことを見落とし、失敗してしまったりと悪循環になることも多くあります。人には、時間の流れによる癒しの力があり、慌てずゆっくりと時機を待つことも大切です。待つことは、何もせず我慢しているのではなく、より良い未来に向かうための継続的な希望を持ち、期待しながら努力をすることではないでしょうか。

子どもが自ら挑戦している時に、もどかしくなりつい手を出してしまいたくなることもありますが、出来ると思えば待つことが大切です。出来なくてもやろうとしたことを褒め、次への意欲を持つことで自信に繋がっていきます。今何が出来るのか、何をしようと思っているのか、助けが必要か、思いをしっかりと汲み取りながら、日々の保育の中に「信じて任せる」の待つ時間をたくさん散りばめ、子どもたちを支えていきたいと思えます。

クレイシュ保育園 園長 小清水 幸子

職員一同

2月聖句

その家に入ったら、「平和があるように」と挨拶しなさい。

マタイによる福音書 10章12節

2月主題

「いっしょにね」 0歳

- ・保育者と一緒に祈ろうとする。
- ・友だちの存在を身近に感じ、関わり合う。
- ・冬の自然に触れる。

「いっしょに」 1・2歳

- ・自分から神さまに祈ろうとする。
- ・全身を動かしたり、手指をしっかりと動かしながら遊ぶ。
- ・相手の思いに気付くながら、つながりを深めていく。

～子どもたちの姿～

冬の独特の静けさに、子どもたちの明るく元気な声が響き渡ります。1月初めには雪が降り、空を見上げ目を輝かせていました。「部屋にも雪を降らせよう」「雪だるま作りしたい」と硬さの異なる包装紙をちぎり室内いっばいに降らせ遊びました。その後、画用紙の上に「雪やこんこ、霰やこんこ〜♪」と口ずさみながら小さな紙を細やかに指先を使い、顔や帽子やボタンを選び糊で貼り付け、個性豊かな雪だるまが出来上がりました。何枚もの紙を根気よく重ね、また雪だるまの形になるように意識したりと製作においても、一人ひとりの成長を感じる事が出来ました。出来上がった作品にとっても愛着を持ち名前を付けたり、愛おしそうにギュッと抱える姿も見られました。今年度も残り2ヶ月となりました。成長を見守りながら、毎日を大切に過ごしていきたいと思えます。



	月	火	水	木	金	土	日
2月の予定表		1	2	3	4	5	6
	7	8 身体測定	9	10	11 建国記念の日	12	13
	14	15	16	17	18 避難訓練	19	20
	21	22	23 天皇誕生日	24	25	26	27
	28	クレイシュ通信					

◎外遊びへ行く際に上着を着用する場合がありますので、薄手の動きやすい上着の用意をお願いいたします。◎
 咳、鼻水、発熱などいつもと違うの症状がみられる場合は無理をせず、医療機関の受診をおすすめします。